

令和8年度 第2回福井市地域生活交通活性化会議 議事要旨

日時	令和8年8月31日（月）15：00～16：30
場所	福井市役所上下水道局5階 大ホール
議題	別添「次第」の通り
出席者	別添「座席表」の通り
	3 議事 議案1：令和7年度収支決算報告について （資料に基づき、事務局より説明） 原案のとおり承認 議案2：自家用有償旅客運送の更新登録について （資料に基づき、事務局より説明） 委員 更新登録の審査基準として、「重大事故を起こしていないこと」という項目があるが、過去3年間に重大事故が起きたことはあるか。 事務局 この3年間で重大事故は起きていない。 原案のとおり承認 議案3：酒生地域コミュニティバスの運行計画変更について （資料に基づき、事務局より説明） 委員 実証運行を行った際は、福井駅まで行く便に何人くらい乗っていたのか。 事務局 実証運行では49日間運行し、乗車人数は上り便が198人、下り便が155人、合計353人という結果であった。 前年同時期の利用者数と比較して、19.7%増加している。 今回、既存の路線バスとはダイヤが重ならないよう上下1便のみ運行し、減便した大野線を補完する形で設定している。 地域の高齢者の外出機会創出により、既存路線との相互補完も期待できると考えている。 委員 福井市の地域コミュニティバスの支援事業は、まちなか地区は対象外であったと記憶しているが、この点についてどのように整理されているのか。 事務局 市の要綱においては、まちなか地区を除くような規定はない。 多様な交通手段により地域の足を確保していくという国の考え方にも合致し

	ていると考えている。
委員	確かに要綱には記載がないが、福井市のホームページには、地域コミュニティバスの対象地域からまちなか地区を除くとしてあるため、もし運用が変わっているのであれば修正が必要かと思う。
事務局	地域コミュニティバスについて、当初は幹線を補完するフィーダー路線としての運用を想定していたが、現在公共交通の運行環境も大きく変わっており、それに合わせて運用方針も変えている。 ご指摘いただいたホームページについては修正させていただく。
委員	今回の延伸に伴い、酒生地域のコミュニティバスに接続する東郷や岡保のコミュニティバスについても、乗り継ぎによる駅前への移動をふまえたダイヤ変更の動きがあるかもしれないが、その場合は柔軟に対応していくということによいか。
事務局	岡保地区についてはオンデマンド交通の実証運行も行う予定であり、今後オンデマンド交通に移行するのか、コミュニティバスを継続するのかについての地区の意向も踏まえながら、柔軟に対応していきたいと考えている。 原案のとおり承認 議案４：南東地区フルデマンドタクシーの停留所設置及び停留所名の変更に ついて (資料に基づき、京福バスより説明)
委員	今回新設する停留所は寺の敷地内にあるのか。
事務局	寺の庇が雨除けになるということもあり、待合環境の観点から敷地の中に停留所を設置させていただく形になった。 原案のとおり承認 協議１：福井市地域公共交通計画の見直しについて (資料に基づき、事務局より説明)
委員	資料５ページに記載の施策について、現行計画の施策一覧からなくなっているものがあるが、こちらはなくす方向で検討するのか。

事務局	既存の施策をなくすことは考えておらず、組み替えていずれかの施策項目に位置付ける予定である。今回の資料については、主なものを抜粋して記載しているため、施策項目について一部記載されていないものがある。
委員	施策項目を組み換えるとともに、新たに施策を追加するということか。
事務局	ご認識の通り、既存の施策を組み替えた上で、路線バスの再編や自動運転について追加する方向で考えている。 次回の会議では、現行の計画と比較できるような形でお示ししたい。
委員	見直しによる追加項目の中に「バス路線再編」とあるが、運転手が不足しているのであれば、運転手を充足する方向で考えた方がよいのではないか。 最終的には持続可能な形で交通ネットワークを構築していくということだと思うが、路線再編にこだわりすぎない方がよいのではないか。
事務局	たしかに再編と言ってもできることは限られているが、基本的に郊外部はオンデマンド交通への転換を進め、市街地は少しでも路線を充実していくという方針であり、再編という言葉は継続して使わせていただきたいと考えている。 また、運転士不足について、現行の計画では現状を説明しきれていない部分もあるため、今後県が行っている対策と協調して福井市でも対応していく方向で考えていきたい。
委員	資料中の「6 バス路線再編に向けた基本的な考え方」について、周辺市街地の方向性として「収支構造の改善」を挙げているが、これはどのような意図で記載したものか。他の地域にはない特有の課題ということか。
事務局	公共交通幹線軸や農山漁村地域の交通については、収支構造を改善することが難しく、路線維持のためには行政の支援が必要と認識している。 一方で、周辺市街地については都市政策の中で居住を誘導していく考え方があり、極力収支の改善により路線バスを充実させていくことを期待して、このように整理させていただいた。
	報告1：地域交通の運行実績について (資料に基づき、事務局及び交通事業者より説明)
委員	路線バスの実績について若干補足させていただく。 減便により利用者数が減った路線はあるが、一部鉄道と並行している区間については利用者が鉄道利用に移行していると思われ、公共交通を利用しなく

	なったわけではなく、交通手段を切り替えた方が数%いると考えられる。 報告 2：京福バス路線の運行計画変更について (資料に基づき、京福バスより説明) 委員 鶉三国線の見直しについて、平日の下り 1 便目はブルーラインとの接続はないようだが、ダイヤを 5 分早めた理由は。 京福バス 下り 1 便目はブルーラインとの接続はないが、終点三国駅から折り返して運行する上り 1 便目について、福井総合病院での乗り継ぎ時間を確保するためにダイヤを早める必要があり、それに連動する形で下り 1 便目のダイヤも早めている。 報告 3：福井市地域公共交通計画の進捗管理について (資料に基づき、事務局より説明) 委員 計画の達成状況について、バスの収支率が改善しているにも関わらず、バスの経費に占める行政負担額の割合が変わっていないが、どのような理由によるものか。 事務局 確認の上、次回の会議にてお答えさせていただきたい。 報告 4：北東地区オンデマンド交通実証事業について (資料に基づき、事務局より説明) 委員 オンデマンドのシステムはどこのものを使用するのか。 事務局 福井市南東地区フルデマンドタクシーで福井交通が使用しているものを使う予定である。 以上
--	---